

令和 7 年度実績概要

1 令和7年度実績概要

令和7年度は、観光客数が回復に向かいつつあった令和6年と比較し、更に観光客数が回復に向かった1年となりました。

令和8年版観光白書によれば、2025年の訪日外国人旅行者数は4,268万人（前年比15.8%増）、訪日外国人旅行消費額は9兆4,549億円（前年比16.4%）と共に過去最高を記録しました。また、日本人の国内延べ旅行者数は5.5億人（前年比2.4%増）、日本人国内旅行消費額は26.8兆円（前年比6.5%増）と過去最高を記録しました。

今後もインバウンドを含めた観光客数と観光消費の拡大が想定される一方で、一部の観光地では、多くの観光客が訪れることによる混雑やマナーの悪化など、市民生活へ影響が現れています。本市においても例外ではなく、観光地のみならず、観光地としての受入環境が整備されていない一部エリアにおいてもオーバーツーリズムによる深刻な市民生活への影響が現れています。

本市では、市民生活と観光振興の両立は「第3期鎌倉市観光基本計画」の施策として位置づけており、令和7年度は、混雑等の課題解決のため、鎌倉の新たな魅力の発信や観光公式ガイドのリニューアルによるマナー啓発、日本遺産コンテンツを通じた時間や場所等の分散化などに努めました。また、オーバーツーリズム対策として、国の実証事業や補助事業を活用しながら、来訪者を誘導するための警備員の配置やAIカメラの設置・分析業務を行い、課題解消に向けて着実な取組を進めました。

最後に、第4期鎌倉市観光基本計画を策定するため、鎌倉市観光基本計画推進委員会における調査審議のほか、市民、関係団体、外部有識者等関係者の意見も聴取を行い、令和8年3月に第4期鎌倉市観光基本計画を策定しました。この新たな観光基本計画では、第3期鎌倉市観光基本計画の基本理念を踏まえながらも、より将来に向けて観光に係る様々な課題を解決できるよう、基本理念を見直し、本市の価値を世界に広め、住む人、訪れる人の誰もがこのまちで誇りを持って過ごすことができる「住み続けたい、また訪れたいまち、鎌倉」を目指して、引き続き取り組んでいきます。

目標Ⅰ「歴史、文化、自然、景観といった様々な遺産を保存・継承しつつ、知られざる鎌倉の魅力や価値を掘り起し、新たな観光資源として発展・向上させます。」

目標Ⅱ「成熟した観光都市としての鎌倉に市民が誇りや郷土愛を感じつつ、安心して穏やかに暮らせるまちをつくります。」

目標Ⅲ「誰もが安全で快適につつがなく鎌倉で学び楽しめるように、観光客を受け入れます。」

目標Ⅳ「観光の振興を地域の活性化につなげます。」

鎌倉の持つ様々な魅力や価値が世界に誇る貴重な財産であることを認識し、観光に携わるあらゆる主体が連携・協力して、誰もが「住んでよかった、訪れてよかった」と思える成熟した観光都市を目指します。

目標Ⅰ「歴史、文化、自然、景観といった様々な遺産を保存・継承しつつ、知られざる鎌倉の魅力や価値を掘り起し、新たな観光資源として発展・向上させます。」

目標Ⅰは、鎌倉の持つ歴史的・文化的遺産や、美しい自然景観の保持に努めつつ、それらを観光資源として発展及び向上させることを目標としています。

令和7年度は、鎌倉まつりは「行列巡行」、「静の舞」、「野点席」を実施、鎌倉新能も昨年度同様に有観客で開催されました。鎌倉花火大会では、高波と強風の影響により花火を打ち上げる台船が出港できず中止となりました。

日本遺産事業として、令和7年12月に文化庁から本市の日本遺産が認定継続となったほか、日本遺産関連情報の発信を行い、国内外に向けて魅力発信を図るとともに、日本遺産への更なる周知のため、朝夜観光促進コンテンツや教育旅行用PR動画、鎌倉の日本遺産ストーリーを表現した独自のロゴマークやポスターを作成しました。さらに、市内の構成文化財において、日本遺産案内板の整備を行い、来訪者への日本遺産周知に努めました。

また、鎌倉ガイド協会との協働事業として、日本遺産の魅力を紹介するガイドツアーを新たに実施したほか、愛知県常滑市で行われたツーリズムEXPOジャパン2025Aichi Sky Expoでは伝統工芸の鎌倉彫を紹介しました。



日本遺産周知ポスター



日本遺産
鎌倉
KAMAKURA

鎌倉市の日本遺産ストーリーロゴマーク



ツーリズムEXPOジャパン 2025

目標Ⅱ「成熟した観光都市としての鎌倉に市民が誇りや郷土愛を感じつつ、安心して穏やかに暮らせるまちをつくります。」

目標Ⅱは、市民生活と観光振興の両立を図り、市民の観光に対する理解を向上させることで、成熟した観光都市鎌倉をつくりあげることが目標としています。

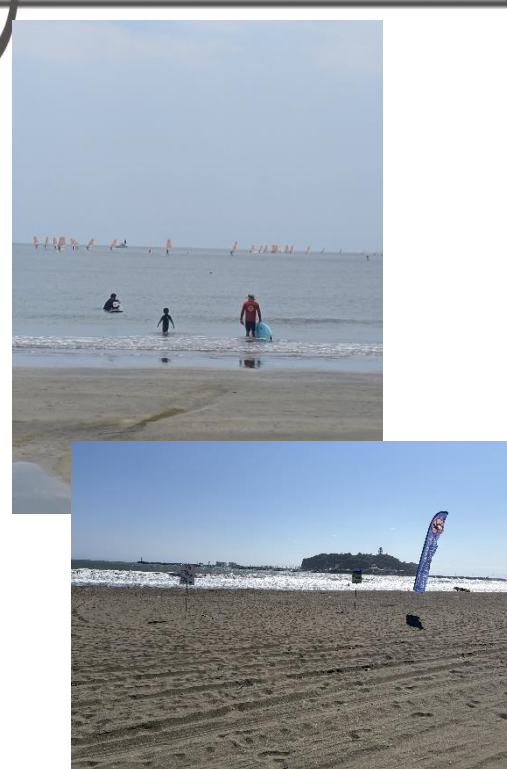
誰でも安全・安心、快適に過ごせる海水浴場の開設のため、来訪者の安全対策としてライフセーバーによる海岸監視、風紀維持のための警備員によるパトロール等を行い、7月18日には津波避難訓練も実施しました。

海水浴場においては、ソフトボードなどの遊具が使用できるエリアや遊泳地区へのフロートの設置、由比ガ浜海水浴場に監視塔を設置したほか、利便性向上と周辺の安全確保のために3海水浴場内に自転車等駐車場の整備しました。

令和7年度はAIカメラにより離岸流の検知を行うシステムにWebアプリケーション「Water Safety eye」が新たに導入され、海水浴客がスマートフォンのカメラで離岸流の発生場所等をはじめとした、海水浴場における危険情報を確認できるようにしました。さらに、本市と協定を締結しているウォータースタンド株式会社の協力により、熱中症等の発生予防を図るため、ウォータースタンドを各監視所に設置するなど、更なる安全対策を講じました。



由比ガ浜海水浴場



ソフトボードエリア

目標Ⅲ「誰もが安全で快適につつがなく鎌倉で学び楽しめるように、観光客を受け入れます。」

目標Ⅲは、観光の形態や属性に関わらず、観光客の誰もが鎌倉の観光に対して高い満足感を抱き、安全で快適な環境のもと鎌倉の魅力や価値を学び楽しむことができることを目標としています。

鎌倉市が紹介している葛原が岡・大仏、天園、祇園山の3つのハイキングコースをホームページ等で案内したほか、公益財団法人鎌倉風致保存会との協働事業として実施しているハイキングコースパトロール事業によりハイキングコース内の情報収集等を行いました。

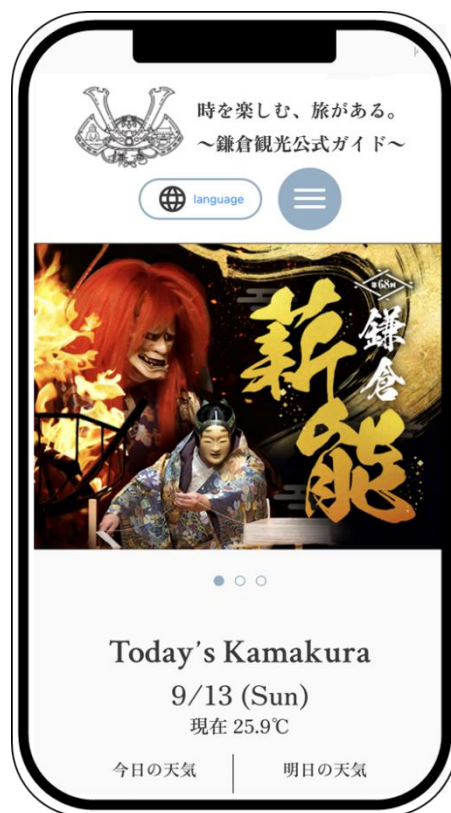
また、本市が2025年東アジア文化都市の国内都市となったことから、東アジアを中心に各国の言語のパンフレットの配布を強化しました。

さらに、外国人観光客の約9割がスマホによる情報収集を行っていることから、令和7年度には観光公式ガイドコンテンツをスマートフォン対応にリニューアルしたほか、イベントやその他の観光情報を多言語でリアルタイムで発信できる機能を追加するなど、訪日外国人観光客への案内の更なる充実を図りました。

天園ハイキングコース



祇園山ハイキングコース



鎌倉観光公式ガイド（スマホ版）

目標Ⅳ「観光の振興を地域の活性化につなげます。」

目標Ⅳは、観光の振興や観光産業に携わっている民間事業者や関係団体が、その活動にやりがいを感じ活躍することができる地域社会の生成を目標としており、「歩く観光」「泊まる観光」を推進することでより多角的な観光消費の拡大を目指しています。

歩く観光の推進を目指し、「鎌倉・文化の森」との協働事業として作成している「ぶらり鎌倉マップ」については、これまで「長谷、由比ヶ浜」、「二階堂、浄明寺」、「北鎌倉、常盤、梶原」、「大船、玉縄」「大町、材木座」の5種類を作成していましたが、令和7年度は新たに「腰越」を作成し、主要地区の全エリアでのマップを作成するとともに、観光案内図に掲載する市域全体地図の更新及び改良を行いました。

また、鎌倉の海の素晴らしさを再認識し、鎌倉の新たな魅力を発信することにより、観光振興、地域活性化に繋げる事業として「鎌倉ビーチフェスタ」が開催されました。



ぶらり鎌倉マップ（腰越）



鎌倉ビーチフェスタ